

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市水とみどりの審議会				
事務局 (担当課)		水みどり環境課 電話042-769-8242(直通)				
開催日時		令和元年 6月 4日(火) 14時00分~16時30分				
開催場所		相模原市立環境情報センター 2階 学習室				
出席者	委員	8人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	5人(環境共生部長、水みどり環境課長、他3人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 次期「相模原市水とみどりの基本計画・生物多様性さがみはら戦略」の素案について (2) (仮称)相模原市生物多様性に配慮した自然との共生に関する条例の条文について 3 その他				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会

2 議題

(1) 次期「相模原市水とみどりの基本計画・生物多様性さがみはら戦略」の素案について

事務局による説明の後、質疑応答を行った。

序章1頁に旧市町村の記載があるが、市町村合併の内容や経緯を市の特徴として入れたらどうか。また、緑地の多い町と合併したことで町の特徴が変化していったということを書いたらどうか。

市町村合併については序章、もしくは第1章で書くのは良いかと思う。ただし、いつまで合併ということを書くかということもあるので総合計画やその他の計画との整合を図りながら記載方法は検討する。なお前計画では、地域名称と内容説明を入れていた。

他の市の人が見たときに旧市町村で緑の分布が分かれており、その経緯として市町村合併があったことを記載しておくとうわかりやすい。また、旧市町村名で表現する場合もあるので、前段部分で記載してあると良いだろう。市域の表現は市民にとって分かりやすい表現にしてほしい。

序章1頁に現計画の改訂に係る文章があるが、水とみどりの基本計画に、生物多様性地域戦略が加わったことについて記載してほしい。

緑の基本計画と生物多様性地域戦略が一体となったこの計画は、本市の特徴を示すものでもあり、文言を追加する。

化学物質の影響については序章の前段部分でも触れた方が良い。化学物質は、昆虫類への影響が明らかとなっており、また生態系への影響もあるため、外来種と並列して前段に記載した方が良い。市民に対して化学物質の生態系への影響を知ってもらうことが重要。

序章2頁のSDGsのロゴがぼやけており、最終版では綺麗にすること。水とみどりとSDGsとの関連性については、市民にわかりやすく伝えるという意味でも前段にあった方が良い。

序章5～6頁の生物多様性等に関する定義がわかりづらい。

現計画では、法令に基づく定義としており、わかりづらい表現になっていたが、次期計画では市民にわかりやすい表現とした。市民アンケートでも生物多様性の理解度が低いということもあったので表現方法は工夫、配慮していきたい。

序章 9 頁の第一の危機で「減少・絶滅」と記載されており、これを同列に書くのはいかがなものか。

句読点の位置で意味合いが異なるので、表現に留意して記載してほしい。表現の方法は再検討する。

第 1 章「市勢の概況」について、農業就業者数の推移等、一般の市民がわかりやすい表現とするためには、表よりもグラフの方が良いのではないか。

わかりやすさの視点で図表を見直す。

第 1 章 15 頁について、地域によって緑地が減少しているが、特筆すべき要因は何か。

採石場での採掘や太陽光パネルの設置、住宅の建設などがその要因の一つと考えられる。減少分としては農地が多い。一方、圏央道では建設後に植樹等の緑化をしたので緑地面積としては大きくは減少していない。

第 1 章 17 頁に関連して近年は温暖化が進んでいるようであるが、ヒートアイランドにおける市内の状況はどうなっているか。

相模原消防局、津久井消防署で温度を計測しているが、近年は上昇傾向にある。図を見ると津久井湖を境に地表面温度が東西に分かれてきており、都市部は高く、緑地部は低いといった特徴がある。

第 1 章 25 頁に関連して、水生動物を考えた場合には、市内の河川範囲というよりは神奈川県範囲として河口から上流までを捉えることが重要。魚類は上流・下流に移動するためダム位置等、流域の分断についても配慮が必要。そのため、図面当該頁の図面として相模川等の河口部が入り、どの部分が川として連続しているのかがわかれば良い。

第 1 章 31 頁について、希少種の定義は何か。

天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保全に関する法律、環境省レッドリスト、神奈川県レッドデータより希少種に該当したものを記載している。なお、重要種として全分類を整理しているが、ここでは例示として哺乳類のみを示している。

第 1 章 33 頁について、ヤマビルを鳥獣被害マップとして例示しているが、ヤマビルは観光には影響があるかもしれないものの、農作物被害を考えるとニホンジカやイノシシの方が良いのではないか。

ヤマビル以外に変更する。

ロードキルという観点も重要。自動車を運転している最中に野生動物と出くわした場合、ハンドルを切って交通事故を起こすということもあり、本市の特性である都市とみどりの共存を考えると今後は検討が必要ではないか。

ロードキルは北清掃工場に対処していたが、哺乳類の種類として判別しているわけではなく、大・小などで分けているだけなので種名等はわからない。今後は、

種別の把握も必要になってくるかもしれない。

全体を通じて、難しい表現の箇所もあるが、わかりやすさに配慮してほしい。

序章の部分は、市民協働や SDGs など第 5 章以降の施策内容にも含まれる内容でもあるため、内容をわかりやすく整理することが重要。

第 5 章の市民への普及啓発について、戦略的にわかりやすく伝えるということを実施として入れていくことが重要。

現行計画は 10 年間の計画であるが、本計画で 8 年になったのはなぜか。

市の総合計画の計画期間が 8 年になったことを受け、整合を図る観点から、同一となる 8 年を計画期間とした。

(2) (仮称)相模原市生物多様性に配慮した自然との共生に関する条例の条文について事務局による説明の後、質疑応答を行った。

新条例の周知は、次期計画の周知と異なることがあるか。

新条例の周知については、次期計画と一体的に行いたいと考えているが、他の計画との整合を図りながら進めていきたい。

3 その他

事務局から、次回の会議日程等について説明した。

以 上

水とみどりの審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	田淵 俊人	玉川大学農学部 教授	会長	出席
2	南 正人	麻布大学獣医学部 准教授		出席
3	吉永 龍起	北里大学海洋生命科学部 准教授		出席
4	鈴木 千景	公募委員		出席
5	秋永 真里子	特定非営利活動法人境川の斜面緑地を守る会 理事		出席
6	飯塚 裕美	特定非営利活動法人みどりのお医者さん		出席
7	熊谷 達男	「小松・城北」里山をまもる会 副会長		欠席
8	高橋 孝子	特定非営利活動法人相模原こもれび 理事長	副会長	出席
9	野口 恭夫	相模原商工会議所 3号議員 (東京ガス株式会社神奈川西支店 支店長)		出席